

報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

平成30年2月15日(木)15:30~16:30 懇談会

※懇談会終了後、お時間のある方は引き続きご懇談ください。

1. 挨拶

— 吉田 憲司(館長)—

2. ニュースリリース

●みんなの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

— 園田 直子(議長)—

3. 開館40周年記念シンポジウム

「民族誌コレクションの役割とその未来—人間の理解にむけた博物館の挑戦」

[詳しくはこちら](#)

あらゆる現象を科学的な知識によって説明し、科学技術によって問題を解決することを志向する現代文明社会において、博物館はどのような意味をもつ空間なのでしょうか。「人間とは何か」という根源的かつ魅力的な問題は、博物館においてどのように考えることができるのでしょうか。

今回のシンポジウムでは、博物館のコレクションから、人間を理解するための切り口を考えます。

日時：3月25日(日)13:30~16:30(開場13:00)

会場：国立民族学博物館 講堂

定員：450名(先着順/事前申込不要)

参加費：要展示観覧券(一般420円)



仮面(ネパール)
写真:六田知弘

— 関 雄二(副館長)—

4. 公開講演会「'70年万博からみんなへ」

[詳しくはこちら](#)

この春、みんなでは、万博資料収集団に焦点をあてた特別展「太陽の塔からみんなへ」が開催されます。本講演会では、当時ボーイスカウトの一員として万博のイベントに参加した吉田館長による講演に加え、収集団に参加した石毛直道元館長と、万博を創作の原点と語る現代芸術家のヤノベケンジ氏をパネリストに迎え、昨年開館40周年を迎えあらたな一歩を踏み出したみんなの軌跡と未来について、存分に語ります。

日時：3月23日(金)18:30~20:30(17:30開場)

会場：オーバルホール

(大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞社ビルB1)

定員：480名(先着順/要事前申込)

参加費：無料

手話通訳あり

主催：国立民族学博物館、毎日新聞社



祖先像(ニューヘブリデス諸島(現バヌアツ))

— 吉田 憲司(館長)—

5. 人間文化研究機構 北東アジア地域研究推進事業 国立民族学博物館拠点 国内シンポジウム

「北の焼畑、南の焼畑—日本列島の文化を再考する」

日本文化は、平地の水田稲作を中心として論じられる一方で、山地での焼畑は、佐々木高明氏（本館元館長）などによって稲作以前を示す農耕として注目されてきました。しかしながら、カブやダイコンなどの北からの作物が焼畑で栽培されていることは軽視されています。今回は、「北からの道」、「南からの道」を想定して、過去と現在の焼畑をとおして日本列島の基層文化を再考いたします。なお、本館では、2018年4月以降に佐々木高明氏の撮影した写真をデータベースとしてウェブサイトにて公開する予定です。

なお、当日は、10:40から日本の文化展示場「山のくらし」にてギャラリートークを行います（約20分）。

日時：3月11日(日)13:00~16:00(開場 12:30)

会場：国立民族学博物館 第4セミナー室

参加費：無料(先着順/事前申込不要)

主催：人間文化研究機構 ネットワーク型基幹研究プロジェクト地域研究推進事業「北東アジア地域研究」
国立民族学博物館拠点

— 辛嶋 博善 (北東アジア地域研究拠点 特任助教)—

6. みんなく春の遠足・校外学習事前見学&ガイダンス

学校団体の教員向けに遠足や校外学習など、博物館見学の準備や事前・事後の学習に役立つツールをご紹介します。

見学に関するさまざまなご相談もお受けいたします。

日時：4月5日(木)、6日(金)

14:00~16:30 (受付は 13:30~16:00)

会場：国立民族学博物館 第5セミナー室

— 包国 征治 (企画課長)—

7. 北海道アイヌ協会工芸者技術研修について

本館では、公益社団法人北海道アイヌ協会との協定に基づき、本館を利用してアイヌ文化に関する研修をおこなう同協会員を外来研究員として受け入れています。

例年、工芸に携わる研修者が本館所蔵のアイヌ民具をはじめとする資料の熟覧調査等をおこなっており、今年も2月中旬から研修者を受け入れるので、経緯や内容について紹介します。

受入期間：2月14日(水)~2月27日(火)

受入人数：2名



— 齋藤 玲子 (学術資源研究開発センター 准教授)—

8. 山形大学との学術協定締結について

[詳しくはこちら](#)

本館と山形大学は、南米アンデス文明ならびに文化遺産の保存と活用を中心的テーマとした幅広い視野に立った文化人類学的研究を推進することを目的とし、学術協定を締結します。

また、学術協定締結を記念し、ペルー・カトリカ大学教授の考古学者ルイス・ハイメ・カスティージョ氏を迎え、国際フォーラムを開催します。

国立民族学博物館・山形大学学術協定締結記念国際フォーラム 「アンデスにおけるモニュメンタリティと権力」

日時：2月19日(月)14:00～18:00

会場：国立民族学博物館 第4セミナー室

定員：80名(先着順／事前申込不要)

参加費：無料

使用言語：スペイン語(通訳なし)

— 関 雄二 (副館長)—

9. 「民都・大阪」フィランソロピー会議長への就任について

かねてより大阪府及び大阪市の特別参与をつとめておりました本館人類基礎理論研究部教授の出口正之が、大阪府・大阪市の【「民都・大阪」フィランソロピー会議】(副首都推進局)の議長に就任しました。これは民博での研究成果を地域への社会貢献として地域政策に活かすものです。

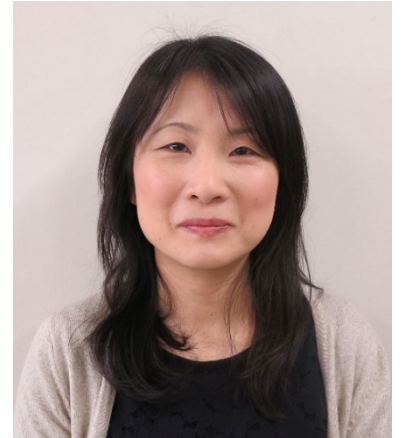
従来、「民都」として企業しか見ていなかった企業中心主義を非営利の組織の視点を入れることで覆し、学校法人、社会福祉法人、公益財団法人、公益社団法人、NPO法人などの「サイロ・エフェクト」(ジリアン・テッド)を人類学的知見によってあぶりだすことで、東京一極集中に対抗していこうとするものです。

議長：出口正之

メンバー：池内啓三 学校法人関西大学理事長、岩田敏郎 社会福祉法人聖徳会理事長、大槻文藏 公益財団法人大槻能楽堂理事長、金井宏実 認定特定非営利活動法人大阪NPOセンター代表理事、久保井一匡 公益財団法人小野奨学会 理事長、清水由洋 学校法人近畿大学理事長など全15名。

— 出口 正之(人類基礎理論研究部 教授)—

総合研究大学院大学にて博士号取得後、外務省専門調査員として在ペルー日本国大使館に勤務。本館機関研究員を経て現職。専門はペルーを中心とする南米アンデス地域の民族学研究、とくに現代の宗教文化についての研究。



— 八木 百合子（人類基礎理論研究部・助教） —

※その他の配布資料
外来研究員受入一覧(資料7)、刊行物報告書(資料8)